

かけはし

氷見

| 広 | 報 | 誌 |

KAKEHASHI

HIMI

患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

TOPICS ●トピックス

北陸がんプロ 金沢医科大学氷見市民病院 市民公開講座 第6回 地域医療懇談会



低たんぱく米「春陽」稲刈り風景

CONTENTS ●もくじ

TOPICS	北陸がんプロ 金沢医科大学氷見市民病院 市民公開講座	P.01
	第6回 地域医療懇談会	P.03
	高田先生の診察室から	P.04
	緩和ケア研修会の開催	P.05
	診療コラム	P.06
	病院★ニュース	P.07
	病院からのお知らせ掲示板	P.08
	まちかど情報	P.09

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。

北陸がんプロ
金沢医科大学氷見市民病院

市民公開講座

胃がんを知って 負けない生き方

第1部・基調講演

金沢医科大学氷見市民病院は、金沢医科大学が実施している「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」事業の一環として、「一般市民並びに医療関係者を対象とした胃がんの診断・治療・予後等に関する市民公開講座を開催しました。

第1部 基調講演では、読売新聞社の特別編集委員を務める傍ら、テレビ系の選挙特番や読売テレビ制作の

報道番組にコメンテーターとして出演されている橋本五郎先生が、ご自身が胃がんを患い手術で胃を全て摘出されたことから、その貴重な経験を体験談として主治医と患者の信頼関係がいかに大切であるかについて講演されました。

開催にあたり高島病院長から、この市民公開講座を通じて、近年急増している癌(今回は胃癌)という病気の認識を新たにしてもらうとともに、罹患した場合の患者さん本人だけでなく、家族の方々がどのように対応し、以後の生活の質の向上を図る上で、どのようなケアが望ましいか、更には医療スタッフ

フとの交流・連携を通して何が大切かなどについて、皆様方に少しでもご理解していただきたいと挨拶されました。

橋本 五郎
先生の講義
がんを宣告されて
知ったこと



がんプロフェッショナル養成プランの概要

◆背景◆

平成19年4月から施行された「がん対策基本法」で「国及び地方公共団体は、手術・放射線療法・化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識及び技術を有する医師その他の医療従事者の養成を図るために必要な施策を講ずるものとする」と記載されています。この趣旨に基づき、文部科学省が「がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがんに関わるコメディカル等、がんに特化した医療者の養成を行うための大学の優れた取り組みを支援する」目的で平成19年度から創設した計画が「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

北陸がんプロフェッショナル養成プログラム

北陸の4医科系大学(金沢医科大学、富山大学、福井大学、金沢大学)と石川県立看護大学の5大学が共同実施体制を組織しています。また、北陸3県の全てのがん診療連携拠点病院が連携施設として加わることで、北陸3県のがん医療を担っている大多数の医療者が、この組織の中で「がん医療のプロフェッショナル養成」および「地域のがん医療向上」のために協力できる体制を築いています。

高島茂樹
病院長による
開会挨拶



第2部 シンポジウム

第2部 シンポジウムでは、本学の専門医師・看護師から「胃がんを知って負けない生き方」をテーマに胃癌の発生から診断・治療・胃癌の予後・術後の経過・栄養状態までを各専門領域において最新治療方法や実際の手術映像等を用いた分かり易い解説が行われた。



伊藤 透
先生の講義
胃がんの治療
(内科的治療)



浦島 左千夫
先生の講義
胃がんの症状、診断



松木 伸夫
先生の講義
胃がんの疫学、
発生、病態



辻 政彦
先生の講義
胃がん手術40年、
8,000例を
経験して



道淵 路子
先生の講義
胃切除後の術後の経過・
後遺症・栄養状態



斎藤 人志
先生の講義
胃がんの治療
(外科的治療・予後)

第3部 特別講演

第3部 特別講演では、辻政彦先生(富山県立中央病院名誉院長)が「胃がん手術40年、8000例を経験して」と題して、これまでの数多い胃がん診療経験から胃がんの診断と治療方法の変化とがん患者や家族がどのようにがんに向き合い、どのように関わりながら生きて行けば良いかを具体的に説明された。また、医療スタッフとの交流・連携を通して充実した生活を送ることが大切であるということについてお話しをされました。

プログラム ◎総合司会：今川美千子

第1部 基調講演 座長：高島 茂樹
(金沢医科大学水見市民病院 病院長)

「がんを宣告されて知ったこと」
講師：橋本 五郎 先生
(富山新聞特別編集委員)

第2部 シンポジウム
「胃がんを知って負けない生き方」
座長：森山 学
(金沢医科大学水見市民病院 泌尿器科 科長 教授)
座長：井口 晶晴
(金沢医科大学水見市民病院 呼吸器内科 科長 講師)

I.「胃がんの疫学、発生、病態」
講師：松木 伸夫
(金沢医科大学水見市民病院 院長補佐 教授 健康管理センター長)

II.「胃がんの症状、診断」
講師：浦島左千夫
(金沢医科大学水見市民病院 消化器内科科長 准教授)

III.「胃がんの治療」
講師：伊藤 透
(金沢医科大学 消化器内視鏡学 教授 講師 主任)

◎外科的治療・予後 講師：斎藤 人志
(金沢医科大学水見市民病院 副院長 一般消化器外科科長 教授)

IV.「胃切除後の術後の経過・後遺症・栄養状態」
講師：道淵 路子
(金沢医科大学病院 看護師 ※がん性疼痛認定看護師)

第3部 特別講演 座長：高島 茂樹
(金沢医科大学水見市民病院 病院長)

「胃がん手術40年、
8000例を経験して」
「がんの今と昔と明日への提言」
講師：辻 政彦 先生
(富山医療福祉専門学校 校長)
(富山県立中央病院 名誉院長 元・外科部長)

第6回金沢医科大学氷見市民病院

地域医療懇談会

平成25年10月26日(土)、第6回地域医療懇談会が開催されました。この懇談会は、当院と地域の病院・医院の連携強化を目的に毎年開催されています。

本年度は19医療機関から20名の院長・施設長等が出席され、当院からは高島茂樹病院長以下副院長、診療科長等の幹部職員約70名が出席しました。

懇談会では、はじめに高島病院長から、「いま、できる限り住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受けつつ、安心して自分らしい生活を実現することが求められています。そのためにも、病診連携はもちろん医療・介護の連携も取り込んだ地域完結型の体制構築が重要となっています。この懇談会を通じて、それぞれの医療機関が有する機能を有効活用し、住民が継続性のある適切な医療が受けられるよう、一層の連携の強化を図りたいので協力をお願いしたい」との挨拶がなされました。引き続き当院の現況報告、役職者並びに新任医師の紹介がなされました。次

病院長開催挨拶



会場の様子



井内さん講演



高藤人志教授からの診療紹介



新任医師紹介



に、一般・消化器外科
斎藤人志教授から
「胆嚢・総胆管結石
症に対する新しい治
療方針」と題して、当
院で行われている胆
院での総胆管結石症
についての診療の紹
介がなされました。

続いて特別講演が行われ、講師として、富山県厚生部次長の井内努氏を招聘し、「地域医療を取り巻く現状と課題」と題した講演をしていただきました。講師の井内努氏は、厚生労働省勤務時に診療報酬改定(平成24年度・業務に携われるなど厚生行政の最前線で活躍してこられました。

これまでの行政経験を踏まえ日本の抱える医療の課題に切り込むとともに今後の医療政策と平成26年度の診療報酬改定の方角性等についてなど興味深い講演でした。

特別講演会終了後の懇親会では、坂本滋院長補佐が開会の挨拶を行い、氷見市医師会長の西野逸男院長のご発声で乾杯が行われました。先生方相互の意見交換も活発に行われ、和やかな雰囲気の中親睦が深められ、最後に、神田享勉院長補佐の挨拶で盛況裡に閉会となりました。

高田先生の
診察室から



脳神経外科教授

高田

HISASHI
TAKATA

久

頭

痛で外来を受診したおばあちゃん。「最近、頭のこの辺が痛くて、血管が詰まって脳梗塞になっただかと思って、見てもらおうと思って来たがです。」と頭頂部の辺りを指差します。脳外科の外来では比較的良好な会話です。実は脳梗塞で頭が痛くなることはほとんどありませんが、おばあちゃんが悩むのも分かる気がします。血管が詰まる梗塞の種類の中で頭の他に有名なのは心筋梗塞です。心筋梗塞は胸が痛くなるので、脳の血管が詰まっても頭が痛くなるとおばあちゃんが勘違いしても仕方ないことかもしれません。脳は神経のかたまりですが、痛みを感じる神経は脳には無いのです。脳を包む膜や、脳の表面の比較的大い血管には痛みを感じる神経があるので、脳内出血の場合には頭痛がしますが、脳梗塞の初期には頭痛はありません。

と「口がもつれる」「右か左かどちらかの手足がしびれる」「力が入りにくい」などの麻痺の症状が代表例です。重い症状だと「意識が悪い」「半身の手足が全く動かない」「起き上がることができない」などの症状です。重い症状だと救急車を呼んで、救急外来を受診されるのが一般的です。問題は軽い症状の時です。氷見の外来で気になるのは、軽い症状の時に「晩寝れば治るやろ。」「若いもんが帰ってくるのを待つとるわ」「病院に行っても待つとるがだやいから、行きたないわ。」といった直ぐに来ない方が多いことです。中には軽い麻痺があっても病院に来ないで、2〜3日後にふらついて頭をぶつけて初めて病院に来られる方もいらっしゃいます。実際にあつた話ですが、ぶつかったことよって頭の中に出血があつたらどうしましょう。

出血の治療と脳梗塞の治療は180度異なります。脳梗塞の場合、抗凝固薬や抗血小板剤を投与します。この薬を使うと血はサラサラになります。別の言い方をすると出血が止まりにくくなります。ですから脳梗塞と出血の両方ある患者様には、脳梗塞の薬を投与したくても、出血がひどくなる恐れがあり、なにもできないこととなります。さて困りましたがどうしましょう。結論は麻痺があつてふらふらするような時は直ぐに病院を受診することです。秋から冬にかけては脳卒中の多い季節です。おかしいと思つたら病院に行くのは明日ではありません。今でしょう。

◎氷見井指導 脳神経外科 神谷亜希子

高田 久 ★ 経歴

- ◎昭和61年 金沢医科大学卒業
- ◎平成5年 日本脳神経外科学会専門医
- ◎平成14年 日本脳血管内治療学会専門医
- ◎平成17年 臨床研修指導医
- ◎平成25年 金沢医科大学氷見市民病院 臨床教授



第1回

平成25年度 金沢医科大学氷見市民病院 緩和ケア研修会の開催



この研修会は、がん診療に携わる医師が緩和ケアについての基本的な知識を習得し、治療の初期段階から緩和ケアが提供されるようにすることを目的としたものです。

開催にあたり、主催責任者である高島茂樹病院長から受講者への挨拶では、「この研修会を通して緩和医療に対する知識を深めてもらい、がんと診断された患者さんが、肉体的精神的苦痛から可能な限り回避できるようにするための方策を習得し、今後の業務に活かして欲しい。」との言葉があり、引き続き、企画責任者である富山県済生会高岡病院の村上望診療部長から受講者に対し、開催にあたっての注意事項などが連絡された後、研修が開始されました。

平成25年10月5日(土)・6日(日)の2日間にわたり当院を会場として「平成25年度 金沢医科大学氷見市民病院緩和ケア研修会」が行われ、医師や看護師など総勢24名が受講しました。

この研修会は、がん診療に携わる医師が緩和ケアについての基本的な知識を習得し、治療の初期段階から緩和ケアが提供されるようにすることを目的としたものです。

2日間にわたり、講義やワークショップ、ロールプレイングなどが行われ、受講者からは、「この研修で学んだことを復習して、医療の現場でしっかりと実践していきたい。」や「医師の苦悩も理解出来、医師と患者さんの架け橋になり、苦痛の少ない治療を受けられるよう医師と協力していきたい。」、「自分で考えていくことが多い内容



だったので全く退屈ではなく、充実した研修であった。」など多くの意見がありました。

後日、受講者へは修了証書(医師は厚生労働省健康局長名、その他の医療職は富山県厚生部長名)が交付されます。

診療コラム

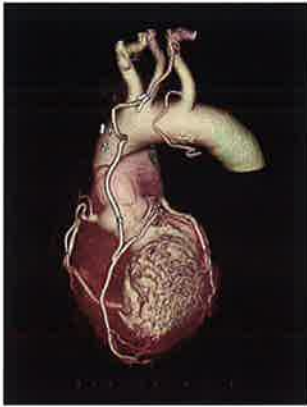
中央放射線部

当部は、常勤医1名、放射線技師13名、看護師2名、事務員3名の総勢19名で運営しており、下記機器等を用いての撮影は勿論、画像診断や放射線治療を行っております。

平成24年度の実績は、一般撮影約3万4千件・CT検査約1万件・MRI検査約2千件・血管造影600件でした。

新病院への移転に伴い導入したデュアルエネルギーCTは患者さんへの被爆量を減少させるだけでなく、従来のCTでは出来なかった分類の解析が可能となりました。年度ごとに計画的に導入を進めている「フラットパネル」の使用でも、被爆量を従来の1/4に抑えることができます。

また、今年8月には「マンモグラフィ 検診施設画像認定」や女性技師による



「マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師」や「核医学専門技師」などを取得しました。

そのほか、専用の携帯電話に画像を送信し、遠方でも診断を可能にするなど、当部では、患者さんに対し、負担をできる限り少なくし、安心して診療が受けられるよう努めています。

直接、患者さんの治療に関わることが少ない上に、接する時間が医師や看護師等に比べ極端に短い中で私たちにできることはなんだろうということに常に意識しながら日々業務を行っております。

しかしながら今後、今より更にレベルの高い医療を提供しようと考えたとき、私たちがだけでは限界があります。どんな些細なことでも構いません、疑問や問題点など、遠慮なく技師におたずね下さい。

設備

- CT装置 Lightspeed Ultra 16
- CT装置 Discovery CT750HD
- MRI SIGNA HDx 1.5T
- デジタル血管撮影装置 Innova 3131 IQ
- X線撮影装置 UD150B-40(キャノンFPD)
- X線撮影装置 UD150L-30(コニカCR)
- X線撮影装置 CH-30GH(コニカCR)
- X線透視撮影装置 SONIALVISION Safire 17
- 核医学診断装置 E-CAM
- X線テレビ装置 DREX-BX45X2/R1
- 乳房X線撮影装置 MAMMOMAT3000nova

健康づくり教室 ④

平成25年9月21日(土)午後2時から病院6階多目的ホールで金沢医科大学氷見市民病院「健康づくり教室(第4回)」が開催されました。

市内外から約60名の方が参加され、当院の整形外科長である池淵公博准教授から「腰痛の予防と治療」と題して行われました。

講義では、腰痛の有訴者率がいかに多いかが説明され、日々の生活との関わりが非常に大きい病気であるということをご認識させられました。その後、腰痛の種類や背骨と腰痛の関係、腰痛の診断例などビデオを見ながらの詳しい講義があり、最後には、私たち人間と密接な関係にある腰痛をどう予防するのかということと、腰痛体操を交えての講義があり、約1時間半に及ぶ教室が終了しました。

参加された方からは、「腰痛をお持ちの方」や「身近に腰痛の方

がいらつしやる」など、やはり腰痛に悩まされている現状から講演後には様々な質問が寄せられました。



池淵先生の講義「腰痛の予防と治療について」

健康づくり教室 ⑤

平成25年10月19日(土)午後2時から病院6階多目的ホールで金沢医科大学氷見市民病院「健康づくり教室(第5回)」が開催されました。

市内外から約50名の方が参加され、当院の泌尿器科長である森山学教授から「加齢と泌尿器の病気について」と題して行われました。

講義ではまず、正常な排尿とはどのようなことを指すのかという確認と、なぜ正常な排尿が出来ないのか?について、膀胱やその周辺の筋肉、がうまく機能しないことが原因であるという説明がありました。また、前立腺がん、前立腺肥大症の違い、前立腺がんが近年増加している原因の1つとして、PSA検査等で発見しやすくなったなどの説明に参加者らは真剣に耳を傾けていました。

その後、尿失禁や過活動膀胱を改善させるための骨盤底筋体操の紹介がありました。



森山先生の講義「加齢と泌尿器の病気について」

感染研修会(地域研修会)

「地域での感染拡大防止」を目指して当院感染対策室、感染対策小委員会が主催、氷見市社会福祉協議会地域福祉研修センター氷見共催の感染対策研修会が平成25年9月2日に当院6F多目的ホールで開催されました。講師は花王プロフェッショナルサービス(株)印田宏子さん(感染管理認定看護師)で、感染防止対策として最も重要な手指衛生について、環境清掃のポイント、疥癬の実態と対応などを説明されました。

この研修会は市民がいくつかの介護サービスを日替わりで利用したり、介護施設で発熱や肺炎を起こした場合には大半は病院に救急搬送されるという現状があります。そのため、院内だけではなく氷見市全体における対策



が不可欠と考え、今回初めて当院職員だけでなく、氷見市全体の病院、介護サービス施設を対象とした感染対策研修会となりました。医療と福祉関係者がともに学ぶこのような研修を今後も継続していきたいと思っています。

「低たんぱく米春陽」稲刈り

平成25年9月22日(日)氷見市胡桃地区において、くるみ営農組合が栽培する低たんぱく米「春陽」の稲刈りが行われました。

J A氷見市の職員や氷見高校農業科学科1年生が参加する中、当院からも糖尿病委員会メンバーを中心に11名が参加しました。

鎌で稲を刈り、それをわらで結び、はさ掛けするという慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、収穫の喜びを皆で分かち合えたのではないかと思います。

また、平成25年10月5日(土)に創作工房ひみにて、この低たんぱく米を使用したクッキング教室が開かれました。

病院からのお知らせ 掲示板

● 氷見市医師会が
移転します

12月に完成予定の教育研修棟の2階に「氷見市医師会事務局」が移転します。

これにより、ひとつの病院の中に医師会と訪問看護ステーションが同居するという全国的にも稀な体系となります。これから氷見市における地域連携(病院、診療所、福祉)の源となり、更に氷見市の医療・福祉のレベルが向上するものと期待されます。

氷見市医師会事務局



● 年末年始休診について

12月29日(日)～1月3日(金)までの6日間は外来診療を休診します。急病の場合は救急外来を受診してください。受診する際は、必ず健康保険証をご持参ください。

また、休日や夜間等の時間外は専門医師が少なく救急診療体制となっておりますので、緊急を要しない場合は通常の診療時間内に専門診療外来を受診されるようお願いいたします。



● 「医療安全」に関する 標語を募集します。

11月24日～11月30日の期間は「医療安全推進週間」です。当院では一般の方からも医療安全に関する標語を募集します。内容は「医療安全」や「院内感染予防策」に関するものとなります。

募集期間

11月22日(金)～12月6日(金)

※応募箱は病院1階総合案内に設置してあります。

忍者ハットリくん カラクリ時計(虹の橋)

氷見市の中心街を流れる湊川に掛かった一風変わった橋が「虹の橋」別名「湊川カラクリ時計」でござる。

定刻になると、噴水が飛び出し音楽が流れ、拙者と仲間たちのショーを見ることができるとござる。実は、氷見市は拙者「忍者ハットリくん」の作者である藤子不二雄(A)氏の生地であるため、1990年代初頭にこの時計が作られたのだニンニン。最後に登場するケンイチ氏が持つておるのは、氷見市の伝統文化



である獅子舞でござるよ。
氷見に来られた際にはぜひ、よつてかれよ

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに務めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平にうけることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意志で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にして頂くため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話ください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないよう配慮ください。

エコロジー ガーデン

ecology garden

シンゴニウム (サトイモ科)

花言葉「喜び」

中央～南アメリカに約20種が分布するつる性の植物です。茎や葉を切ると乳白色の液を出します。形の異なる幼葉と成葉があり、幼葉は株が若いころに出る葉で、葉の軸が長く、キツネの顔や心臓のような形をしています。成葉は成長した株が出す葉でいくつかに深く切れ込み、鳥の足のような形をしています。院内の鉢は幼葉が多いので、キツネの顔のような葉っぱを探してみてください。見つけた「喜び」を感じられると思います。



スポンサー
企業

- (有)アカン商会 ● サカサ産業株式会社 ● 株式会社ダスキンヘルスケア北陸
- たんぽ葉薬局 氷見店 ● 株式会社つばめ交通タクシー ● ニッショク株式会社 ● 日本海綿業株式会社 ● 株式会社日本空調北陸 ● 株式会社ビー・エム・エル ● 氷見伏木信用金庫 ● ファーマライズ株式会社 ● 北陸コカ・コーポリング株式会社 ● 北陸総合警備保障株式会社 高岡支社 ● ホテル日航金沢 ● 株式会社山下設計 ● 米沢電気工事株式会社 ● 菱機工業株式会社 ● 株式会社ワールドシンコー

編集後記

夏の猛暑から一転、9月には降り続く雨に悩まされ、10月には台風の猛威にさらされるといった天候の中、自然界は着々と冬支度を始めているのではないのでしょうか。氷見市では「寒ぶり」という美味が冬に待っています。冬が待ち遠しいという方も多いと思いますが、勿論、私も例に漏れず。

さて、本紙で紹介させて頂いた、がんブロ公開講座や健康づくり教室ですが、このような講座の開催を通じて、市民の方々や患者さんと接する機会がより増えたのではないかと感じております。

病院運営基本方針の1つに「患者さん中心の病院運営を行います」とあります。至らない点は多々ありますが、職員一同、この基本方針を胸に日々努力致しますので、今後どうぞよろしくお願いたします。

金沢医科大学氷見市民病院 経理管財課 かけはし秋号編集委員 椿原 澄朗

■広報誌「かけはし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。

